
怪話篇 第一話 ランナー

K1.M-Waki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪話篇 第一話 ランナー

【Nコード】

N5271T

【作者名】

K1・M・Waki

【あらすじ】

毎日ジョギングをする彼は、自分と同じ様に走るランナーを見つける。なかなか追い付けない前走者に追い付いたある日、彼に起こったことは…

怪話篇 第一話 ランナー

1

「おや、竜児。おかえり。朝御飯出来てるよ。」
「ただいま。ふう、今日は暑くなりそうだよ。」
「しかしまあよく続くもんだねえ、ジヨギングなんか……、他の事は三日坊主のくせに。」

「はは……、そついや最近、俺の前を変な奴が走っててさあ、こいつがそんなに速い訳でもないのに全然追い付けないんだ。おまけに俺とそつくりな格好してるんで、よけい頭にくるんだ。毎朝必死で追いかけてるんだけれど、いつも逃げられてばかりなんだ。」
「なに言ってるんだい。おまえの足が遅いらだよ。」
「けどなあ……、今朝はあの野郎、踏切で足どめされてたから、絶対チャンスだったのになあ。もう少しのところで、電車のやつ通り過ぎちまった。残念だったなあ。」

2

「ただいまあ。また逃げられちまった。」
「またかい？もういいかげんに、諦めたらどうだい。」
「今一步だったんだぜ。あいつ、踏切の向こうで靴紐を直していたから……。そしたら、今度はこつちが、電車に捕まっちゃったい。」
「日頃の行いが悪いからだよ。さっさと朝飯食っちゃいな。」
「そんな風に言うことないだろう、まったく。あーん、なんだよまたこれかい？たまには美味しい物出してくれよ。」
「ほおー、いやならいいんだよ。あたしだって別に好きで食わしてやってんじゃないんだからね。」

「分かったよ！……有り難くいただきますよ。」

3

「その顔だと、また逃げられたね。」

「ああ……、踏切の向こうのかどのところ。あと2・3mだったのになあ、……靴紐がほどけちゃった。」

「へえ、今日はおまえの方の紐が、切れたのかい？あつ、そうそう。それで思い出したよ。新しい靴、買ったよ。それ、もうボロボロだろう。そこに置いてあるから。」

「サンキュー……。あれ、これ今日あいつが履いてたやつと同じだよ。」

「ふーん。それ、お店の人もよく売れているって言ってたしね。やっぱり竜児より速いだけあって、あたしと同じにセンスがいいねえ。」

「なに言ってるんだよ。それより腹減った。早く飯くれよ。」

3

4

「おかえり。おや、何だいそれ。」

「ああ。これ……。あいつのタオル。」

「おやおや、血が付いているじゃない。怪我でもしたのかい？」

「うん……。いいや。」

「どうしたの？変な顔して。」

「変なんだ。」

「何が。」

「踏切を越えた門の所で……。あいつ立ち止まって。何か考えてる様だったんで……。声かけて走ってったんだ。そしたら、あいつ逃げ出して。」

「それで転んで怪我でもしたのかい？」

「違うよ！あいつ、何も言わずに黙って逃げるんで、追い掛けて・・・、そしたら今日は追い付けたんだ。」

「へえ、やっと追い付いたんだね。」

「うん・・・。で、俺も頭きてたから引つつかまえて・・・、そしたら急にいなくなっただ。」

「えっ？」

「消えたんだ。俺、あいつの首に巻いてたタオルを捕えたんだ。そしたら、タオルだけ残して・・・。絶対変だよ。」

「変なのはおまえの方だよ。結局、また逃げられたって事だろう。」

「確かに消えたんだよ。」

「そんな事あるはずないだろう。このタオル洗つとくから、明日ちやんと返すんだよ。」

「・・・。確かに消えたんだけどなあ。変だよなあ・・・。」

5

「・・・。やっぱり変だ。今日はあいつ走ってない。「ふう・・・。少し休憩。そついやあいつが立っていたの、この辺だなあ。んでもって、あいつ、タオルをこう首に巻いてて・・・。この端を引っ張ったんだから、タオルだけ残る筈は・・・、アテテッ。首が締まっちゃうぜ。」

「おーい。やっと見付けた。」

「えっ。そんな・・・。あれは・・・。じゃあ、今まで俺が追い掛けていたのは・・・。待てよ、・・・あいつ、俺に追い付いて・・・、それから・・・。」

「あつ、コラ待てよ！逃げんな。」

「バカヤロー！来るな。おまえの追い掛けているのは、俺だ。さつさと帰れ！」

「何を逃げてんだ！この野郎何とか言え。」

「だから帰れって言ってるだろう。帰れ、帰れ！帰れ！」

「待てよ、逃げんな。」

「来るな、来るな！。聞こえないのか、バカ！。」

「よし、今日こそは追いついたぞ。おいこら、待てよ。」

「待てるか！あっちへ行け！グツ、こら、何をする……………」

「そら、捕えた。おまえ誰だ？」

「……………はっ、離……………離して……………くっ……………、息が……………」

「……………」

「あれ……………。消えた……………」

eof .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5271t/>

怪話篇 第一話 ランナー

2011年10月9日03時55分発行